



『みなと塩竈海保カレー』スタート!!

この度、宮城海上保安部にご協力いただき、海上保安部の協力を得た活動としては全国初となるカレーによる地域活性化事業「みなと塩竈海保カレープロジェクト」を発足しました。海上保安部の船艇では入港日にカレーを食べる伝統があり、塩竈にある宮城海上保安部では、船艇ごとにさまざまなカレーが食べられています。本プロジェクトでは、これらの「海保カレー」のレシピを忠実に再現した「みなと塩竈海保カレー」を市内飲食店で広く展開し、塩竈の新たな名物グルメとして、観光振興と地域活性化に寄与することを目指します。今後は参加店募集をはじめ、PRイベントなどを積極的に実施する予定です。どうぞ、ご期待ください!

みなと塩竈海保カレー は3種類！
それぞれ巡視船の名前がついています!



魚介の旨みがたっぷり
シーフードカレー



乗組員に人気バグンの本格派
ビーフカレー



爽やかな甘さと酸味が絶妙
フルーツキーマカレー

みなと塩竈海保カレープロジェクト キャンペーン概要(一部)

<主なスケジュール>

- ① 4/25～5月末:プロジェクト参加店を募集(今後、市内飲食店10～20店舗 目標値)
- ② 5月下旬:参加店説明会予定
- ③ 7月上旬:販売開始予定
- ④ 10月:「みなと塩竈ゆめ博」にてプロジェクトのイベント開催予定



海上保安部のカレーとは

各船の料理長が、代々引き継がれた伝統あるカレーレシピを持ち、一航海の区切り、ご苦労様の気持ちを込め、入港日の昼食時に提供される。長期航海のため、栄養のバランスにも気を使い、付け合せにサラダやデザートなどが添えられる。また、食欲増進・疲労回復のため、具材や彩りなども工夫し、見た目の心配りも忘れない。



海上保安部と塩竈のつながり

海上保安部は、海上の安全及び治安の確保を図ることを任務とする海上保安庁の組織である。第二管区海上保安部が塩竈市にあり、東北6県を担当している。塩竈港を基地とする宮城海上保安部は、昭和23年海上保安庁の発足とともに設置され、巡視船が配備された港湾風景も含め、長い歴史と共に地域に親しまれている。



プロジェクトの経緯

平成30年8月3日、(公財)海上保安協会宮城支部を通じ、桑原茂塩釜商工会議所会頭へレシピが贈呈され、同年12月26日、みなと塩竈海保カレープロジェクトが立ち上がった。海上保安部の協力を得た取り組みとしては、全国初となるカレーによる地域活性化事業となる。塩竈は日本有数のマグロ水揚げを誇る魚市場があり、「寿司の街 塩竈」としても知名度が高いが、今回、海保カレーを塩竈の新たな地域食となるよう、観光グルメ展開プランとして取り上げ、今後の観光振興と地域活性化を図る。



みなと塩竈海保カレーとは

「みなと塩竈海保カレー」は、塩釜商工会議所が商標登録(出願中)しており、名称の使用には認定を受け、塩釜商工会議所の会員でなければならない。提供するカレーは、レシピを忠実に再現し、参加店ごとの「海保カード(案)」が添えられる。盛付・トッピング・サイドメニューは、参加店ごとに工夫することができる。



海保カレーカード案(イメージ)